

学習塾英語シンポジウム 報告書

「学習塾のリセット！ ～これからの集客と実績を出す英語指導とは～」

【開催趣旨】

グローバル社会、情報社会、スマートシティなど、社会構造の変化が目まぐるしい中、コロナ禍により、様々な場面で「グレートリセット」が必要な状況になっています。

さらに、2020年小学校英語必修化、2021年中学校のオールイングリッシュなど、英語の教育改革は、社会構造の変化に合わせて活躍できる人材輩出のためにパラダイムシフトとなります。

この機会にこれまでの成功をある意味、「グレートリセット」して、英語指導のニューノーマルを探す必要があると考え、NEAでは英語シンポジウムを開催し、学習塾の英語指導がどのような形がよいかをみなさまと一緒に考えました。

当日のパネリストのみなさまの“熱意（おもい）”を報告いたしますので、ご高覧ください。

NEA 事務局

【パネリスト】

中澤 理 氏	ANNIE ..GLOBAL EDUCATION 代表
トックス バジル 氏	株式会社エドベック代表取締役社長
武井 理訓 氏	株式会社 FREEMIND EVAN 事業本部 取締役

【モデレータ】

江藤 真規 氏	株式会社サイタコーディネーション代表取締役社長
---------	-------------------------

（進行）

テーマに沿って、パネリストにキーワードを提示してもらい、意見交換をしていきました。

【実施日等】

2021年3月8日(月) 11:00～12:30

学研ビルおよびオンライン形式によるハイブリッド開催

（目次）

【テーマ1】	今回の英語教育改革はYESかNOか？	……	P.2～3
【テーマ2】	今後の日本の英語教育・指導の方向は？	……	P.4～6
【テーマ3】	具体的にどう学習していくのがよいか？	……	P.7～9
	〈これからの英語教育について〉	……	P.10 ～11

【テーマ1】 今回の英語教育改革は YES か NO か？

(中澤)

(フリップ) : 70%は YES どこに向かうかは現場次第

英語教育は携わっている人は本当に多い。生徒の学齢も違えば、その目的も異なる。そのうえ、英語指導のゴールも違う。つまり、スタンダードがそれぞれの現場で全く違う。

現場はそれぞれ異なるのに、改革という言葉でひと括りにしてしまえば、どこに向かうべきかがわからなくなってしまう。目指すところはなんとなくわかるが、現場によって向っていくところが違ってしまうと改革にならないのではないかな。

ということで、70%の YES。

(トンクス)

(フリップ) YES キーワードは「B2」

今回の改革で、文部科学省は、高校を卒業する時点で CEFR の B2 レベルの英語力 を身につけていることを目指すと言っている。これは評価できる。

例えばハワイに旅行に行って、お店で飲み物を買えるというレベルの英語力では「使える英語」とは言えない。A1、A2 レベルではお話にならない。

使える英語という意味では、B2～C レベルが必要。そこを目指しているということは賛成だ。

問題は、B2 レベルまでいくような場面が作られていないのではないかな、ということ。目指すゴールはいいが、そこに到達する 手段についてはまだまだ不十分 なところがあると思うので、69%の賛成だ。

(武井)

(フリップ) YES キーワードは、「総合力」

今回の英語改革については、賛成だが、課題があるのも事実。

私も「総合的な英語力を高めていこう」という方向性は正しいものだと思う。

ただし、大学入試などの、いわゆるアセスメントが、目指している方向性とかみ合っていないのではないかな。結果的に、教える現場が何をやったらいいのかわからず、混乱の原因をつくっていると思う。

(トンクス)

小学生に英語を教えるときにぜひとも注意してほしいのは、英語ざらいにしないということ。これは一番気をつけてほしい。

あと、まんべんなく、バランスよく教えるということも大事。偏った指導をしているところは結構ある。

(武井)

日本人はすぐ、「学ぶことは大事だ」と言うが、学ぶ以前に英語を学ぶことへのモチベーションが大事。

指導する側も、何を身につけさせたいのか、といったことをきちっと考える必要がある。楽しく、ダンスをすればいいというものではない。

(中澤)

「楽しい」という言葉について、私の考えを伝えたい。

英語教育には「楽しい」がついてきてしまうが、あまりにもバラツキがあると思う。

例えば数学の場合なら、「今、数学が楽しい」と言うとき、「やったー」とか言って、踊ったりとかしているわけじゃなくて骨のある問題が解けたから楽しいと思うのではないか。ところが、英語教育の場合は、「わーっ」と盛り上がっているような状態を「楽しい」と言っていないか。これは違うと思う。

英語でも、ハッピーみたいな感じでなくて、インタレスティングと感じる学習が楽しいのではないか。目指すべきところはそこだと思う。

(武井)

難しいのかもしれないが、達成感みたいなものが必要では。難しいものができたとか、自分の力がついてきたとか、それらを積み重ねていくことで、本当の意味の楽しさに気づいていけるのだと思う。

(トンクス)

私がいけないと思うのは、教える側が制限を設けてしまうこと。

例えば子どもだから、書かせることはやらない、とか。こういう指導をする理由もわかるが、書きたい子どももいるし、書くのが大好きな子どももいる。あるいは、覚える単語はこの程度でいい、とか、難しい単語は覚える必要がない、とか決めつけるのはよくない。

目の前の子どもが、何をもしろいと思うか、何にひきつけられるか、をもっと観察して指導すべきではないか。

(江藤)

子どもの発達段階に応じて、楽しさは変わると思うが、どの年齢の子どもでも「話せてうれしい」「コミュニケーションがとれ、伝わってうれしい」「できてうれしい」という経験をさせていくことが重要であるということですね。

今般の教育改革については、期待感の含め、みなさん概ねYESということのようですね。

【テーマ2】今後の日本の英語教育・指導の方向は？

(武井)

(フリップ) 技能教育 4技能・・・？

大切なのは「使える英語」という視点でしょうか。

4技能という言葉がいろいろなところで出てくるが、4技能というのは技能の区分でしかなく、実際には基礎的な単語の知識や文法の知識がなければ、当然のことながら運用したり、英語で考えたりというのはできない。

なので、どれが大事ということはなく、やはりすべてが大事だと思う。目先の4技能という言葉にふりまわされている人が多いのではないかな。

しっかり英語で運用できるようになるために、4技能をバランスよくしっかり学習していくことや、どれだけ実践できるようになるのかということが大事になってくる。

(トンクス)

(フリップ) 4SKILLS

強調したいのは、技能別の指導というのはいらない、ということ。

たとえば、10分間リスニングをやって、次の10分間でスピーキングをやる、というようなトレーニングではなく、聞きながら話す、話しながら聞くというように、総合的にやることが大切だ。

(中澤氏)

(フリップ) 「長期的」「体系的」「実用的」

「使える」というのが大事で、最終的にはそこを目指すべき、ということで指導の方向性をこう表現した。

「長期的」というところかというと、例えば3歳からで英語を学んだ場合、小学校低学年、高学年、中学生で何をどう学ぶか、どのような力を身につけるか、ということをイメージしてないまま、勝手に指導されている。

今は、だいたい幼稚園や保育園でも英語の経験はあるが、小学校に入ってから学びと、塾に行ってから学びは全然体系化されていない。

日本全体として、国を挙げて長期的に見ていくことが大事。その上で、英語スクールや塾もそこに乗っていく、ということをやるときで、本当はできるはずだと思う。

「体系的」というのも同じで、「何を？」「どれだけ？」ということをもっと意識するべき。

例えば、うちの英語スクールでは、

How did you come here today?ときいた場合、
もちろんたとえば I came here by car. というのが正しい答えだが、
How did you come here today?

Mam.

といった「お母さんと一緒なんだね。お母さんと来たんだね」というような答えについても、マルだと思う。

我々は、このような指導をしているところで、別のスクールに行ったら、今度は絵を見せて、apple, banana, orange...といった単語の羅列や、“tiger, good” とかをやっている。そして、別のところではまた別の指導法をしている。どれがいい悪いではなく、あまりにもバラバラすぎて、全然統一感がない。さっきバジルさんがおっしゃるように、ある程度は与えるべきものを決めていかないとぶれるのではないかな。

私は、幼稚園で教える一方で、高校生の授業も担当する。3 歳さんのダンスもやり、高校生に大学入試用の文法も教える。よく珍しいと言われるが、このように長期的な視野で指導することが、「体系的」な指導につながってくると思う。

そして、最終的に大事なのは、「実用的」であること。

実用的であるイコール「使える」ということで、実用的というのは、どこまで実用的かが大事。英語スクールで受け答えができてほめられる、でいいのか、あるいは、家でお母さんが英語で話しかけたら英語で答えられればいいのか。買い物ができる、プレゼンができる、仕事で使える…。どこを目指すのか。

「長期的」「体系的」「実用的」を意識して、英語指導の向かうべき方向を考えていきたいと思う。

(江藤)

では、学習塾では実際にはどうしたらいいのでしょうか。10 年後にいい改革だったと言えるためにどうするのがよいのでしょうか。

(中澤)

まずは、みなさんの指導内容を共有化して、ある程度の最低限のところをスタンダード的にそろえるの必要があります。やり方というよりは、どこまでやるか、何をやるべきかというところをしっかりと把握することが大事だと思う。

子どもはすごくできる。大人が思うよりもずっとコミュニケーションができる。日本は、「これくらいやるともう難しすぎる」といった制限をしすぎでは。

(トunks)

(フリップ) KNOWLEDGE ABILITY MOTIVATION OPPORTUNITY

「KNOWLEDGE」というのは、知識、単語の知識、文法の知識があるということ。

「ABILITY」は、能力、技能、スキル。

「MOTIVATION」はとても重要で、内面的にも外面的にも、これがなければ続かない。

「OPPORTUNITY」は、機会。

国際的な基準で考えると、例えば知識というのは、これからは単語力がすごく重要だ。日本人は明らかに単語がたりない。ネイティブと比べてもそうだが、第2言語の学習者の中でもたりない。単語は小さいころ

から習得できる。単語については、多いのと少ないのではどちらがいいか、とか、遅く覚えてもかまわない、とかは、多分、議論の余地がない。ですから、小学校英語をどうするかで悩んでいるなら、まずは「単語講座」を作って、土台となる単語力を高める指導をすれば間違いないと思う。

「ABIRITY」については、今の時代の英語学習には、デジタルをとりいれないといけないと思う。それは、AIでもいいし、自立学習用でもいいと思うが、1対1の先生との対面指導だけで技能・スキルを高めることはほぼ不可能だと思う。

一方、「MOTIVATION」については、システム的な対応もできるが、これについてはなによりも生身の先生が関わるのが効果的だ。

英語を好きになったきっかけで最も多いのは、英語の先生が好きだったから。ちなみに、嫌いになったきっかけも、英語の先生が嫌いだったから、というのが一番多い。モチベーションについては、これは絶対に先生が重要ですね。

最後の「OPPORTUNITY」は、初めにB2レベルを目指すのが大事という話をしたが、日本人がB2レベルまでいくには2500時間ぐらい勉強しないとダメと言われていた。学校で勉強するのは多分1000時間もないので、1500時間をどこで勉強するかがすごく重要。民間教育機関の出番がここにある。たくさん具体的な機会をつくり、モチベーションを上げて、テクノロジーをとり入れて知識を高めていくこと。これによって、いい結果が出るKAMOしれない。

(KNOWLEDGE、ABIRITY、MOTIVATION、OPPORTUNITYの頭文字をとって)
(江藤)

全国の学習塾が、地域に根差した活動を展開することでかなりKAMOの比率が高まりそうですね。

(武井)

(フリップ)	「自立」「時間」	Practice makes perfect.
--------	----------	--------------------------------

キーワードとしては、「自立学習」と「時間」。

これはいまバジルさんがおっしゃっていたのと全く同じで、やはり2500時間ぐらいが必要。日本人では、英語学習に対しては、どうしてもラクしてとか、遊びながら身につける、というような方法を推奨する人がいる。

使える英語を身につけるためには、それなりにしっかりと学習をしないとできるようにならない。それなりの時間が必要になる。

Practice makes perfect. がやはり大事で、いかに練習をするか、が積み重ねられることが重要だと思う。考え方としてはやはり、先ほど長期的にという話があったが、語学は時間をかけて、しっかり学ばべきものという認識は、みなさんがもつべきだと思う。

そして、英語は技能なので、自分でやらなければうまくならない。いかに素晴らしい先生に習っても、それだけでは英語が使えるようには絶対ならない。間違えてもいいので、ちゃんと自分が感じたことを英語で表現する、といった経験を積み重ねていくが大切。成果を感じながらしっかりと力をつけていく、そういった考えをみなさんがもつといいと思う。

【テーマ3】具体的にどう学習していくのがよいか？

(事務局)

特に中学生の英語指導をどうするのがよいかを伺いたい。

(中澤氏)

(フリップ) 低学年からのリピーティングそして高学年でのアウトプット 聞く→話すが大切

今年、中学の教科書が改訂になるが、単語数が増えるとか、文法が難しくなるといったイメージだけが先行している。なぜ、中学英語がそうなるかは、小学校のことから考えなければいけない。

文科省が小学校の英語をこうしていくというのがあり、中学校ではこれくらいのことを学ぼう、となっている。そして、学校英語の出口の大学ではこうなるという風に。

バジルさんが言われたように、世界で戦える日本人をつくりたい。自分の意見をはっきり言える、プレゼンができる日本人をつくりたい。そのために英語力の強化が必要。

そもそも日本人は、英語に関して量が圧倒的に少ない。

低学年では、聞いてマネをすることが大事。それができるようになってきたら、高学年ではアウトプ

ットも取り入れていく。それがコミュニケーションの前提で、そこから文法的なものもできるようになってく

る。そして、中学校の内容に落とし込まれ、意味がわかってくる。さらに中学校でそれができるから、高校の授業で最終的に自分の意見が言えるようになる。

小学校低学年からの繰り返し、反復が大切で、これを本当に意識するとどの教材も生きてくる。

(トunks)

声を出すということはすごく重要だ。

聞くだけで英語ができるようになるという教材があるが、あれで英語ができるようになった人はいるのか。声を出すのはすごく重要で、言えることは絶対に聞けるということだ。

外国人でも、おしゃべりな人ほど日本語が上手になる。もの静かな人は、あまり上達しない。聞くことと

話すこととはセットであり、すごく重要なこと。

(武井)

教科書が難しくなることに注目が集まっているが、本来目ざしているのは、英語でのコミュニケーション力のはず。「聞く・話す」だけに重きを置きすぎて、「読めない・書けない」ということも出てきている。実際に使える英語を目指す、というのは変わっていないはず。やるべきことをきちんと積み重ねるのが大事で、特別に何をということはないのではないかなと思う。

(トンクス氏)

(フリップ) ANALOG DIGITAL FUSION

これからの具体的に目指すことは、ANALOG・DIGITAL・FUSION。

デジタルについては、みなさんよくご存じだと思うので、今日は触れないが、アナログでいうと、今回の中学校の教科書改訂は、私たちが見る限りはそれほどたいへんな改訂ではない。文法的にすごく難しくなっているということはない。小学校で勉強していることを前提でつくられているから、

難しいように感じるかもしれないが、4技能が教科書の中に、バランスよく入っている。

日本に来て 30 年近くになるが、最初に私が見た日本の英語指導で一番びっくりしたのは、先生が英語をやべっていないこと。海外で、フランス語を勉強するときに、先生がずっと英語で教える、なんていうのはありえない。ただ、日本も少しずつ変わってきた。

(中澤)

英語で授業するのは難しい。

私どもは、私立の中学校で文法を英語で教えるという授業をつくっているが、不定詞や完了形などの言葉は、やっぱり教えられないです。英語で教えてもピンとこない。

(トンクス)

一度には難しいから、少しずつその方向を目指せばいいと思う。

〈会場からの質問〉

いま、塾の先生はかなり迷っていると思う。

レプトンは既存の塾にさっと導入できて、勝手に子どもたちが勉強する。MyET は、単語学習でしかもスピーキング。塾でスピーキングなんて以前ならとても考えられなかったですが、発音の判定までしてくれる。すごい。すばらしい教材が増え、多様な塾があるなかで、塾はこれから教材をどう考えていったらよいかを教えてください。

(トンクス)

私の考えでは、経営的にまず大事なのは、人しかできない部分は何かを定義することだと思う。

塾では、その先生しかできないことを定義して、教材やシステムの役割を考える。この順番で考えるべき。

そのうえで、それをしっかり保護者に説明できるようにする。どうしてこれを使っているのか、先生がどのように指導しているのか。今の保護者は、いろいろ見ているし、知識も豊富。その塾の特色や現状に合わ

せた形でのシステムや教材を選んで、説明できるようにすることが大切。

(武井)

塾としては、成果が出る指導をしなくてはいけない。どこまでのものを成果というかにもよりますが、やは

り時間がかかるので、2〜3 か月でパッと力がつくかという、それは難しいと思う。ただ、ある程度継続すればこんな力がつきますよというようなことをアピールできるようにする必要があると思う。このぐ
らいの期間でこういったことが身につくということを提示できれば、保護者の満足にもつながる。

なんでもかんでもできますよというよりは、その子どもに合わせて、何か月でこれくらい、1 年後にはこれくらい、といったところをきちっと提示できるといいのではないかな。

(トunks)

システムや教材を入れる際には、成果を考えるでしょう。子どもや保護者のことも考えると思うが、同時に、

指導する先生のことを忘れてはいけない。

現場の先生に支持されないシステムや教材は、うまく使われないので、現場の理解はすごく重要。

(視聴者からの質問)

大学入試をどう考えるべきか。4 技能テストが導入先送りになったが、大学入試の英語について、今後、塾としてはどう対応すればよいか。

(中澤)

大学入試をひと括りにするのは乱暴。大学によって違うし、同じ大学でも学部によっても違う。

ただ、大きな流れとしては、英語力を問うているよりは、実行人間力というか、自分を表現できるかを問

うていることが増えてきている。

例えば、大前提として単語や熟語を知っていることは大事だが、自分の考えをしっかり持つ勉強も併行でやっていないといけない。英語だけの問題ではない、ということを今感じている。

人間力つけないと、自分のアピールができない。そうでないと、「英語でも話せない」「話す内容がない」ということになる。

(武井)

4 技能テストというと、従来のものにスピーキングだけが加わったように言われることがあるが、そこは違うのかなと思う。

初めに言ったが、総合的な英語力が求められていて、それをテストで測るトップにあるのが大学入試だと思う。そこに対応するためには、やはり先ほど中澤さんがおっしゃったように、どう考えて、どう英語で表現するかが大事。

〈これからの英語教育について〉

(武井)

(フリップ) 継続←動機

継続が大事。どんな素晴らしい学習をしても、やめてしまったら力が落ちるのが語学。ある意味では、一生続けていかないとけない。

とはいえ、ダイエットと同じで、語学の学習もなかなか続かない。続けるために必要なのは、やはり動機だと思う。今日も動機に関する話が出てきたが、なぜ英語を学ぶか、英語ができるようになってどうしたいか、といった自分なりの動機が持てるかが非常に大事だと思う。そのために、我々が後押しできるとよいと思う。

(トンクス)

動機については、先日セミナーで子どもたちに、英語を学ぶメリットとしてどれが一番ピンとくるかをきいたら、「収入が増える」というのが最も多かった。子どもは現実的。儲かるなら英語頑張りますよと。

お金の話はしたくないという教育者が多いと思うが、お金は大事。生活が豊かになるよという話はとても大事だと思う。

(武井)

実際、やっぱりお金は大事。いろいろなところで、「日本が貧しくなっている」とか「日本の年収は下がっている」と言われているが、英語ができれば、仕事の可能性も広がる。リアルに伝えていくことが大事。

(トンクス)

今の時代に、英語教育に携われるということで私たちはとてもワクワクしている。今までやりたくてもできなかったことがどんどんできるようになっている。

できることが多くなり、逆に何をやればいいのか迷うことにもなっている。例えば、スーパーでは品ぞろえが豊富なところよりも、限定したものを置くほうが売上が伸びると言われている。だから、英語教育についても、限定することが私たちの仕事だと思う。

何をやればいいかと、はっきり説明できるようにすることがこれからはすごく重要だ。それを、こういったセミナーを通して伝えていきたい。

(中澤)

英語教育に携わって 30 年ぐらいになるが、私たちは、新しいものに先に触れて取り入れているが、やっている内容や習得の原理は、変わっていない。

いろんなやり方は共有化できるといいと思っている。そして、一番合理的に習得できますよというものを共有化できるといいのではないかな。それをこういった機会を通じてしていきたい。

私の個人的な見解だが、英語をすごく頑張った人が二極化していて、一部のすごく使える人と、全然しゃべれない人がいる。この全然しゃべれない人がしゃべれるようになる、という教育が日本では抜け落ちてきてしまったのではないかな。

裾野を広げて、力を合わせてスタンダードをつくり上げていきたい。

(江藤)

(フリップ) 日常生活に組み込む

もはや、英語はやりませんという選択肢はない時代だと思う。今日のお話にあったように、塾の中でグレートリセットが行われていくと、とてもよい結果につながると思う。

子どもも大人もとにかく忙しい。いかに日常生活に組み込んで使うか、家庭目線からそれをしていくことがカギだと思う。そして、実際のところ学習塾というのは面白いほど日常生活の中に組み込まれている。その組み込まれた時間を有効に活用していけば、必ずよい未来がつけれると思う。

(中澤)

基本的に、今、塾がやってことは歴史もあるし、ちゃんとやられている。まずご自身の方法を自信をもつ

て提供する、で間違いないと思う。さらに今から変わっていく英語教育に関しては、できているところ、できていないところを見つけながら、能力を上げていくための手段としていろいろなものを吸収して活かしていくことだと思う。

(事務局)

塾のこれまでの成功体験っていうのは、実績も出していると思うのでまずはしっかりとそこをお伝えすることでしょうか。NEAとしても、新しい情報を的確に提供していきたい。

以上